

乱流現象と経済物理

中野 徹

中央大学 理工学研究科 物理学専攻

Abstract

乱流での揺らぎと経済での価格の揺らぎは非常によく似ている。揺らぎの取り扱いでは、長い歴史をもつ乱流での手法が経済物理でも用いられてよいであろう。例えば価格の揺らぎをランジュバン方程式で記述するさいには、乱流での渦粘性と同等な実効的な粘性係数が導入できるであろう。今年の近大での物理学会での高安等の報告では負の粘性係数が現れる場合もあるとのことである。乱流ではそのような負の粘性係数が現れるかどうかを含めて、経済物理で役立つような乱流での考え方について述べる。

